



第116号 2014年3月

発行：萩ネットワーク協会

〒758-8555 山口県萩市大字江向510 萩市役所広報課内

TEL 0838・25・3178 FAX 0838・26・5458

萩市ホームページ <http://www.city.hagi.lg.jp/>

写真／マキタオモリツグ

主な内容

史料探求 「花燃ゆ」のヒロイン 杉文	P4
ズームアップ 漫画家 桐木憲一(東京都)	P6
人と街とを繋ぐ宿 萩ゲストハウスruco(萩市)	P7
元気な企業探訪 ミヨシノ醤油 三好孝史(萩市)	P8
夢追人 萩焼作家 止原理美(萩市)	P10

明倫小学校校舎は、昭和10年に旧萩藩校明倫館跡地に建築された大規模な木造建築物で、国道191号に面した本館棟は、国の登録有形文化財に指定されています。建築から78年が経過したことにより老朽化が進み、今年4月に隣接する旧萩商業高等学校跡へ移転します。

昭和初期の木造校舎4棟が、建築時の姿をとどめ現存することは全国的にも稀有であり、映画（「ほたるの星」など）やテレビ（「はじまりの歌」など）のロケ地としても度々活用されました（3ページ）。3月20日に最後の卒業生を送り出し、明治維新150年に向け観光の拠点等として保存活用されます。

最後の桜 明倫小学校 本館棟



今年禁門の変、 下関拳兵から150年

今から150年前の1864(元治元)年、前年の「八月十八日の政変」で禁衛警護の任を解かれ京を追われた萩藩は、尊王攘夷の志のもと威信回復を目指し上落したものの「禁門の変」に破れ、朝敵の汚名を着せられます。

下関戦争で四国連合艦隊の砲撃等により下関は大きな被害を受け、更には追討の勅命による第一次長州征伐へと続く極めて辛い境遇の中、三家老、十一烈士をはじめとする多くの尊い犠牲により、難を逃れながら志を守り、高杉晋作らによる下関での挙兵が行われます。

萩藩は、絶体絶命の危機に陥りますが、高杉晋作ら松下村塾門下生を主軸に、激動の時代を切り拓き、明治維新という偉業を成し遂げます。

この機会に萩市では、先達の織り成す「幕末・維新の萩物語」を語り広め、また、次の世代に語り継ぐためのきつかけとなるよう記念事業を展開します。

元治元年(1864)

6・5 京都池田屋の変

新撰組を世に知らしめた有名な京都池田屋事件が起こり、松下村

塾四天王の一人、吉田稔磨は新撰組の襲撃により重傷を負い、長州藩邸の門外で自刃。

7・19 禁門の変(蛤御門の変)

会津・薩摩藩の兵と京都御所の蛤御門で会戦して敗れ、四天王の二人、久坂玄瑞や入江九一など、長州藩士約260人が戦死。



蛤御門(禁門) (京都市上京区)

8・2 第一次長州征伐

幕府は諸侯に第一次長州征伐を命じ、長州藩では保守派が実権を握る。

8・5 下関戦争

前年の外国船砲撃の報復攻撃として、英・米・仏・蘭の四方国連合艦隊が下関を砲撃、壊滅的な被害

害。

9・26 禁門の変の責任を感じ周布政之助が自刃

10・24 十一烈士が野山獄に投獄

11月12日に、竹内正兵衛、中村九郎、佐久間佐兵衛、赤戸左馬之助が、ついで12月19日に前田孫右衛門、毛利登人、山田亦介、渡辺蔵太、植崎弥八郎、松島剛蔵の計11人が野山獄で処刑。



毎年十一烈士の慰霊祭が行われる野山獄跡(今古萩町)

11・11 三家老が切腹

禁門の変の責任を問われ、益田右衛門介、国司信濃、福原越後が切腹。

12・15 下関拳兵

高杉晋作らは、俗論派打倒のためクーデターを起し、翌年の大田・絵堂の戦いで正規軍(俗論派)を破ったことで、藩論は倒幕に統一。

150th ANNIVERSARY

第1回

萩・幕末維新検定

市外から半数以上にあたる
約200人が受検!

2018 明治維新

2018年(平成30)の明治維新150年に向け、幕末・維新期の萩ゆかりの人物や歴史を学ぶ、「第1回萩・幕末維新検定」が2月23日に行われ、410人の申し込みがあり、353人が受検しました。

会場は当初予定のJAあぶらんど萩に加え、萩市民館と萩市総合福祉センターでも行い、志士や奇兵隊士に扮した受検者もいました。

参加者特典の松下村塾内での特別講義や萩博物館のバックヤードツアーには希望者全員が175人が参加しました。

問い合わせ

萩市まちづくり博物館推進課

(0838・25・3290)

114人

▽年齢 11歳〜92歳(平均年齢51歳、男性53歳、女性48歳)

▽住所別

・県外 41人(12%)

・県内 156人(44%)

・市内 156人(44%)

みなさんもチャレンジ! ~出題された記述式問題から

- 萩藩主が参勤交代で利用した萩から三田尻までを結ぶ街道の名前は何か。
- 吉田松陰から将来、周旋家になると言われたのは誰か。
- 吉田松陰が好んで使った「ひろく遠方のことを見聞し、物事を観察するのが鋭敏なこと」という意味の四字熟語は。
- 幕府老中首座阿部正弘がペリーの開国要求に応じ締結した条約を何というか。
- 吉田松陰らが処刑された安政の大獄を行い、桜田門外の変で暗殺された大老は誰か。

出題形式/公式テキスト(問題集)から100問【択一式50問・記述式(人名等の語句)50問]
合格基準/80問以上の正解
★公式テキスト(検定問題つき)を3名様にプレゼント。

移転後の明倫小校舎4棟を保存し、萩観光の玄関口に



旧萩藩明倫館跡地にあり、今年4月に隣接する旧萩商業跡地に移転する明倫小学校の校舎は、昭和10年に建築されたもので、全国的にもこのような昭和初期の大規模木造建造物が市街地に残っていることは稀であり、歴史的・景観的にも大きな価値があります。

市では残された跡地の利活用について「明倫小学校跡地利活用検討委員会」（委員15人）で昨年5月から協議を重ねてきましたが、この度、基本方針がまとまり、跡地整備に向けて動き始めました。

■基本方針

明倫小学校跡地の敷地全体を、「歴史・文化・教育ゾーン」として位置づけ、4棟の校舎棟についてはすべて保存して活用することになりました。

校舎棟は、歴史的風致を形成する建造物として、その景観を維持保全し地域の魅力の向上を図るとともに、萩市のまちづくりにも有用な活用を行います。

総合観光案内所や地域の観光資源をPRするなど萩観光の玄関口となる「観光の拠点」、伝統ある教育方針を後世に伝える「教育伝承の場」、団体や個人の個性豊かで多様な活動を支援する「生涯学習・市民活動の場」、幕末・維新関連資料など萩の魅力ある収蔵品等を展示する「資料展示の場」として活用するため保存整備を行います。

南門から水練池にかけては、史

跡エリアとして、水練池や有備館、明倫館碑などの国指定の史跡が点在していることから、旧萩藩校明倫館の復元を長期的に目指します。

また、グラウンド部分は駐車場機能に加え、中央公園との連携を含めて多目的な利活用を目指します。

■旧明倫小校舎の保存改修

旧明倫小校舎は、経年による老朽化が進んでいるため、安全・安心の観点から、平成26年度に老朽度調査等を実施し、耐震工法を検討したうえで、平成30年度にかけて、耐震改修を行い、4棟すべての保存・活用を予定しています。

耐震改修工事は2棟ずつ行う計画で、平成27、28年度は本館と2棟目を、29、30年度に残り2棟の工事を実施する予定です。

■問い合わせ

萩市企画政策課

(0838・25・3117)

映画やTVで登場



映画「ほたるの星」
(2004年/小澤征悦主演)



映画「長州ファイブ」
(2006年/松田龍平主演)



大和ハウスグループの新聞広告・
テレビCM (2013年9月)

※ You Tube で映画の中での明倫小校舎、有備館の登場シーンを見ることができます。

新しい明倫小も完成



新しい明倫小学校校舎 (2月下旬)

新しい明倫小学校校舎は、現在の明倫小学校の北側に隣接している、旧萩商業高校の跡地に移転するため、平成24年12月から建築工事を行っています(2013年3月号で紹介)。

現在の明倫小と同じく、かつての藩校明倫館の敷地内への移転となるため、藩校時代から受け継がれてきた歴史ある教育環境は変わりません。

新しい校舎は、旧萩商業高校の耐震性のなかった南側校舎2棟と武道場、明倫小のプール

等を解体し、鉄筋コンクリート造2階建て、延べ床面積約3800㎡、周囲の景観に配慮した瓦葺き屋根、杉板張りの外壁に漆喰仕上げで、内装も市有林の木材を活用した和風建築となっており、普通教室(4室×6学年)や職員室等が入ります。

併せて、旧萩商業高校の校舎のうち、教室やパソコン教室、職員室などがあつた北側校舎(約3600㎡)を改修し、校長室や事務室、保健室、音楽室等の特別教室等として利用するとともに、体育館、プールも小学生用に改築改修して利用します。

今年卒業する児童で、明倫小の卒業証書授与番号は1万9901人となります。約78年という長い間、児童たちの成長を見守ってきた校舎は3月の終業式で役目を終え、4月からは新たな明倫小学校での授業がスタートします。

「花燃ゆ」のヒロイン 杉文ふみ

道迫真吾（萩博物館主任研究員）

来年の大河ドラマ「花燃ゆ」の発表後、私は諸方面から質問攻めにあっている。

今や伝説となった感のある「花神」（1977年放映）以来、久方ぶりの萩を題材とした大河は、萩市民もしくは萩ファンにとつて悲願達成にほかならない。だからここにきて、一気に皆さんの思い（不満？）が爆発したようだ。私個人としては、来年の世界遺産登録という難題だけであくせくしているのに、まさか大河ドラマが重なるとは、まるで宝くじにでも当たったかのような気がしている。余談はさておき、質問の具体例



吉田松陰画像
（萩博物館蔵）



60歳頃とみられる文の写真
（『日本及日本人 臨時増刊 松陰号』
1908年（明治41）発行より）

をあげると、「文ってどんな人なの？」、あるいは「文のことについて知りたいけど史料（資料）はないの？」というのが実に多い。

ただし、史料の少ない杉文（のちの久坂文、楯取美和子）を主人公に定めたのはNHKである。いわけがましいが、私はしばらく、「わからないことだらけです」、あるいは「ないものはないのです、ごめんなさい」としか返答のしようがなかった。

とはいえ、その気になつて探せば意外と史料が出てくるものであるので、「吉田松陰全集」を読みこんでおられる方には別段真新しいものではないであろうが、松陰が書いた手紙などを読み進めると、文について触れたものがちよこちよこ出てくる。なかでも、「文妹久坂氏に適くに贈る言」という史料を読み進めると、なぜ「文」という名前が付けられたのか、松陰がどのような思いで文を久坂玄瑞の嫁にしたのかなど、けっこう面白いことがわかる。

そこでこの場をお借りして、拾い集めた史料を整理することで、皆さんの疑問にできるかぎりお答えすることにしたい。

謎の文の誕生日

結論を先にいえば、文は天保14年（1843）に生まれたと考えられる。しかし残念ながら、誕生日については確定できないのが現状である。それは、文献により記載が区々だからである。

① 管見の範囲では、①天保14年生まれ（山口県教育会編『吉田松陰全集』）、②天保14年2月1日生まれ（久坂恵一著『久坂家略伝』）、③弘化2年（1845）3月1日生まれ（霞館華族家系大成編輯委員会編『平成新修旧華族家系大成』）という3つをあげよう。①では誕生日がわからないが、②では誕生日が明示されている。これだけで済めばことは簡単に解決しただけであるが、③は①および②と年が異なる上に、②の誕生日とは違う日付が示されているのである。多数決の論理でいえば、天保十四年生まれと考えるのが自然であろうが、③は信頼の置ける文献であるため、決して無視することはできない。

一方、没年月日については、①は大正10年（1921）9月とし、②および③は大正10年9月7日としている。よって、命日は大正10年9月7日であらう。以上から、文は天保14年生まれと考えられるので、享年は79ということになる。

なお、私の勤める萩博物館はもとより、多くの博物館では、歴史上の人物を扱う際、年齢については数え年で表記するのが通例である。しかし、新聞の場合は満年齢表記をするというルールがあるようだ。情報媒体によって年齢表記に食い違いが見受けられるのは、このためである。

文の名前の由来

文という名前は、玉木文之進から「文」の一字を授かったものである。

松陰は、15歳の文が18歳の久坂玄瑞と結婚した安政四年（1857）12月5日、「文妹久坂氏に適くに贈る言」という一文をしたため、はなむけの言葉とした。この文章に、文という名の由来が説明されている。それは、「少妹の初めて生るるや、玉叔父実に撫し、これに与ふるに其の名を以てす。阿文の称、蓋し偶然に非ざるなり。（中略）汝生るること独り晚く、吾れ最もこれを憐む。行余に書を読みて相ほ大義に通じ、以て阿文の称に副はば、其れ其の可なるに庶幾からんか」というものである。

この一節は、「あなたが誕生するや、玉木の叔父は大変可愛がり、自分の文之進の名から「文」という一字を採ってあなたの名としました。「お文」という呼び名は、私が思うに偶然付けられたものではありませぬ。（文の二人の姉千代と寿に比べて）あなたは一人遅く生まれたため、私は一番気の毒に思っています。余暇に書物をおよよみ、人として守るべき道義をおおよそ理解し、それによって「お文」という呼び名の意味するところに

適うならば、それこそ玉木の叔父の願いに近づくことができるのではないでしようか」と意欲できる。松陰は、「文」という名前のいわれを説明し、その名に恥じぬよう励みなさいと諭すのだ。

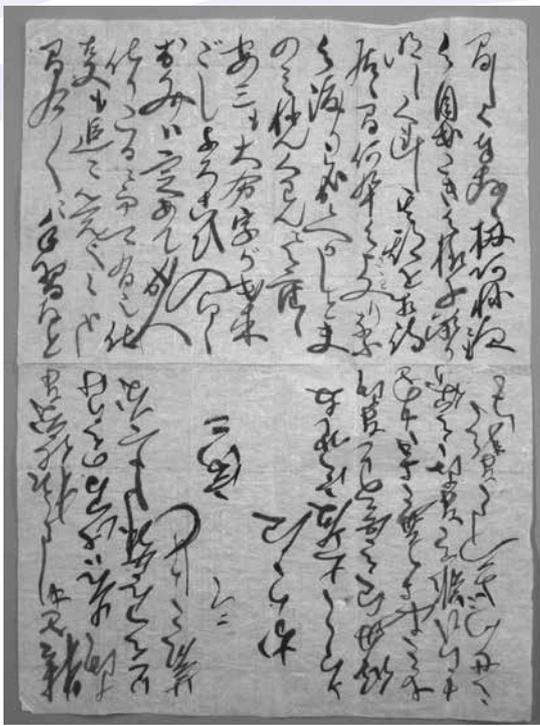
また、この文章では、松陰がいかなる思いで文を玄瑞に嫁がせたのかも説明されている。それは、「久坂玄瑞は防長年少第一流の人物にして、固より亦天下の英才なり。今少妹の穉劣なる、其の耦に非ざるや審かなり。然れども人は自ら厲まざるを憂ふ、自ら厲み自ら勤めば何すれぞ成らざらん」というものである。

この二節は、「久坂玄瑞は萩藩内で第一級の人物であり、もちろんまた日本全国に通じる優れた才能の持ち主でもあります。今のあなたは未熟であり、彼の配偶者に

松陰の文への思い

ふさわしくないのは明白です。しかしながら私は、人が自分からはなかなか努力しようとしないうことを心配しているだけで、あなたが自ら進んで励み、努力すれば、必ずや立派になることができます」と意欲できる。妹思いの松陰の姿が髣髴とするようである。

松下村塾の門人である玄瑞や高杉晋作が旅に出る際、松陰がそれぞれにはなむけの言葉を贈ったことはよく知られているが、松陰はまた、妹文が嫁入りするに際しても、心掛けとすべきことを文章にして贈った。人を奮い立たせることに天性の才を發揮した兄松陰に刺激されて、文もきつと発奮したにちがいない。



母滝に送られた松陰の手紙
(萩博物館蔵、杉家寄贈)

ものついでに、もう一つ史料を紹介しておきたい。松陰はとにかく、いつも文のことが気がかりでならなかったらしい。時間は少し遡るが、松陰が野山獄に閉じ込められていた安政2年(1855)11月、母滝に送った手紙に、「お文は定めて成人仕りたるにてこれあるべく、仕事も追々覚へ候や」というくだりがある。松陰は母に、「お文はさぞかし立派に成長したことでしょう。家事も少しはできるようになったでしょうか」と、文の近況を尋ねているのである。この時、松陰は26歳、文は13歳であった。この手紙は、松陰・文らを世に送り出した杉家の末裔から萩市に寄贈されたもので、現在は萩博物館にて大切に保存している。

松陰自筆の手紙からは、彼の肉声が聞こえてくるようである。手紙の写真をみると、下半分は天地が逆転している。松陰が手紙を書く際、二つ折りにしていたため、全体が見えるように展開すると、このような状態になるわけである。杉家から萩市に寄贈された松陰の手紙は、全部で60通ほどある。大河ドラマの放映に先行して、今秋から萩博物館で定期的に手紙を入れ替えながら、全てを展示する予定である。また、杉家から寄贈された貴重な写真資料も展示を予定している。ご期待いただきたい。

2015年 NHK大河ドラマ 『花燃ゆ』

主人公・文と結婚する
小田村伊之助(榎取素彦)役は、
大沢たかおさんに決定!



■大沢たかお (小田村伊之助役)
1968年(昭和43)東京都生まれ。映画「世界の中心で、愛をさけぶ」「解夏」「地下鉄に乗って」など話題作に出演。テレビドラマ「JIN-仁-」、大河ドラマは「花の乱」(1994年、足利義材役)に出演。

来年の大河ドラマ「花燃ゆ」で、井上真央さん演じる、主人公の吉田松陰の妹・文と後に夫婦となる小田村伊之助(榎取素彦)役が、大沢たかおさんに決定しました。

▽土屋勝裕チーフ・プロデューサー

「吉田松陰が正直者すぎて困ると評した小田村伊之助に相応しい俳優さんを考えたととき大沢さんに

演じて欲しいと思った。義理の妹文を優しく見守りながら、何度も幕末のピンチを乗り越えていった不死身の男、そして名県令と讃えられた小田村伊之助、大沢たかおさんの活躍を、どうぞお楽しみに」

▽大沢たかおさん

「ひとりの英雄の人生を追うものではなく、英雄たちを陰で支えた人たちとその家族を描く今まで

にない大河ドラマになると思いますが。皆さんが心から共感し、感情移入できる作品になるよう主演の井上真央さんと共に、スタッフ、キャスト一丸となつて精一杯頑張ります」

出演者は順次発表されていきますので、詳しくは、ホームページ「NHKオンライン」をご覧ください。

■小田村伊之助(榎取素彦)
1829〜1912年(大正元)享年84

松下村塾を託され、松陰の妹二人(寿・文)と結婚した長州の儒学者。明治維新後は初代群馬県令(現在の県知事)となり、県庁を高崎から前橋に移転して伝統産業の養蚕・製糸業を奨励し、教育にも力を入れ、草創期の群馬県政に大きく貢献。

桐木 憲一さん

（萩市椿東出身、東京都在住、萩高平成6年卒、38歳）



ニチブンコミックス／日本文芸社
1～2巻 各680円
ゆめじあゆみ
写真部員の女子高生・夢路歩がフィルムカメラを片手に、さまざまな東京の名所・旧跡を写真におさめていくストーリー。叙情溢れる「街歩きフォトコミック」として注目を集めている。



映画「東京シャッターガール」
(2013年/93分)
3人の個性派監督によるオムニバス作品として実写映画化。

高校時代 漫画家を志す

高校1年生の夏休みの期間中に「週刊少年ジャンプ」の月例賞ホッパステップ賞に投稿したのがきっかけでした。

絵を描く事は小学生の時から好きで、学級内では友達同士で当時流行していた「ドラゴンボール」や「キン肉マン」等を模写しては見せ合いをしていました。が、商業誌向けにきちんと物語を規定の31ページにまとめて、コマ割りやペン入れをした作品を投稿したのはその時が初めてでした。

当時の心境としては学級内の友達に見せる感覚で投稿したという側面が強く、「ダメ元」での挑戦で、失敗したとしても話題になるかなという軽い気持ちで臨んだと記憶しています。その作品が運良く入賞になり初投稿でそのままその作品が雑誌掲載されるという幸運に恵まれました。さらにその翌年に

連載コミックを自ら映画企画

は赤塚賞にも準入選し、その作品も続けて雑誌に掲載されました。

在学中や卒業後もしばらくは萩市での執筆活動を続けていたのですが、編集者との連絡や打ち合わせの利便性を考えて20歳を超えて上京し、集英社「週刊少年ジャンプ」や「ビジネスジャンプ」誌上での作品発表を積み重ねてきました。

2013年に公開された映画「東京シャッターガール」の原作漫画は、日本文芸社「週刊漫画ゴラク」誌上で2011年から連載中の作品です。

「カメラ」と「街歩き」が題材の作品で、多くのカメラ雑誌等や街歩き雑誌にも取り上げられ、2012年に都内のギャラリーで漫画に出てくる舞台をモチーフに一般公募で参加者を募った写真展を開催しました。本来2次元である漫画の世界が実際の写真によって現実化したような不思議な感慨があり、是非次は映像化をしたいという希望を抱くようになり、映像化企画を実現化させるべくさまざまな方々の御協力の元に映画製作という新しい表現に挑む事になりました。

今後、表現していきたいこと

漫画製作と映画製作の両方を経

験して感じたのは関わる人数の違いです。今回の映画作品が3本の短編オムニバスという事もあり、通常の3倍のスタッフやキャストが関わっています。また漫画には無い「音楽」というジャンルにも関わりました。今回の劇中音楽の作曲を担当してくれたのは同級生の山本和智君（東京都在住）、同じく萩在住のピアニスト・長岡あゆみさん、ギタリスト・玉井紀行さんが演奏を担当しました。

また、新春の萩ツインシネマでの上映会初日の舞台挨拶には写真家として著名なハービー・山口さんが駆けつけてくださった等、この度の映画化を契機にさまざまな方とお会いすることができました。

仮にクラシックカメラを持っていく女子高生が何気なく街を歩いているというシーンを製作する場合も、漫画の場合は資料を集めてひたすら一人で机の前にかじりついて描くという作業を完成まで続けるのですが、映画の場合は俳優監督、撮影スタッフ、衣装、小道具、ヘアメイク、美術等実質的に関わってくる人数が多くなります。

ただ今回自分は監督ではなくプロデューサーという立ち位置なので現場では何もしておらずここにいてだけで良い、下手すればいなくても作品はでき上がります。その意味で作家としての作品へのアプローチの仕方は随分と

違ってくるという事は実感しました。この体験がまた今後新しい表現方法への模索へとつながる気はしています。

ネット社会で文化をどう発信していくか

この度の「東京シャッターガール」の萩上映会では、これまで帰省時には話すことの少なかった世代の皆様とも映画作品を通じて交流を持つことができとても興味深い機会を得ました。

新しくできたばかりのゲストハウス「ruco」にも宿泊させていただき、萩市での新しい創作の潮流のようなものを肌で感じとても頼もしく思えました。また劇場には十二代三輪休雪先生もお越しくださり、それを契機に先生の陶芸作品や著作本を拝見し、萩市のローカルにとらわれる事なく凛然と表現活動を続ける先生がおられる事に驚き、大変影響を与えていただきました。

ネットやソーシャルネットワークを介した情報のやり取りの利便性は、自分が上京を決意した10数年前には考えられないほど盛んになり、情報ツールをうまく使いこなす事が現代の社会で競合していくには必要不可欠なメソッドになっている事は時代の空気として実感します。しかし一方で地域性というものはそれとは相反し、依然

として動かしがたい肉體性を伴っている事は、頭でつかちに情報を詰め込んだだけでは実現性を持っていない、人間の持つ大きな矛盾にも思えます。

おそらく今後情報化社会がより進むにつれて「情報」と「肉體性」の矛盾はより大きく隔たっていくように思えます。自分にとって体験の本質とは予測不可能な「苦勞」に依拠していると考えています。

生活に根差した地域性から生まれる文化を、どう大勢の人達に向けて発信していくのかという命題を達成していくのは、一筋縄ではない苦勞を要すると思えます。個人的には必要以上にはやっきになつて発信する必要はないと考えますが、時代の趨勢とともに今後も変わり続けて行く地元萩市を同郷出身者として、自分自身もまた「行雲流水」の視座で観続けていきたいと思えます。

プロフィール

1976年(昭和51)萩市椿東生まれ(萩高平成6年卒)。2011年から「週刊漫画ゴラク」に「東京シャッターガール」を連載中。漫画関連の写真展、映画化に関してはプロデューサーを務める。東京都豊島区との協働事業「トキワ荘通り協働プロジェクト」スタッフとしても活動中。萩ふるさと大使

萩に新たな交流の場が誕生

人と街とを繋ぐ宿 萩ゲストハウス



の人が「流れ」、「交わる」ことを願い ruco (流交) と名付けられました。改修作業には、友人や知人など約200人が、手伝いや差し入れなどの応援に駆けつけました。店内には萩焼や萩ガラス、岩川旗店の大漁旗など萩のこだわりの詰め込まれています。

1・2階がカフェとなっていて、3・4階の宿泊スペースには個室と相部屋(ドミトリ)があり、計15人が宿泊できます。1・2階は宿泊者以外でも自由に利用でき、飲食物の持ち込みも可能で、旅行客同士だけでなく地元住民との交流の場としても利用されています。

実際に、萩を訪れた旅行者が ruco で地元住民と知り合い、一緒に食事に出かけて行くといったこともあり、旅行者はガイドブックなどには載っていない地元ならではの情報を手にすることができ



1階のカフェスペースで塩満さんと自由に談笑

ruco 代表の塩満さんは「来られた方に、居心地が良く、ここに居てもいいと思ってもらえるような場所でありたいです。旅行者に、いかに町との接点を作ってもらうかが大事で、萩のまちの素敵な人、もの、場所をつなぐ場所にしていきたいです」と話しました。今まで萩にはなかった空間が生まれ、萩の魅力の新たな発信基地となっています。

萩市出身で東京からUターンした塩満直弘さん(椿東、29歳、萩工業平成15年卒)とその同級生2人が、旧リズム楽器店の4階建ビルを改修しオープンさせ、店名は、萩の三角州の水路のように、多く



萩ゲストハウス ruco

萩市唐樋町 92 (田町商店街駐車場向かい側)

TEL 0838・21・7435

HP <http://guesthouse-ruco.com/>

<宿泊> チェックイン 16:00 ~ 22:00
チェックアウト 10:00

料金	宿泊	ドミトリー (相部屋)	2,800 円	
		個室	1人	4,500 円
			2人	7,500 円
3人	10,000 円			
その他	朝食	300 円		
	レンタルタオル	100 円		
	歯ブラシ	50 円		
設備	シャワー、ドライヤー、キッチン、冷蔵庫、炊飯器、鍵付きロッカー ※近くにコインランドリーがあります。			

<カフェ> 16:00 ~ 22:00

飲物 350 円~

※宿泊者以外も利用できます。

ミヨシノ醤油 有限会社

代表取締役

三好 孝史さん

(42歳、萩高校平成元年卒)

創業100年以上の歴史を持つ老舗・ミヨシノ醤油。地元企業が製造・販売で協力し合う「クオリティプロジェクト」に参加し、これまでの醤油製造に加え、新商品の開発を行い、商圏拡大を目指しています。そのミヨシノ醤油の代表取締役・三好孝史さんにお話を伺いました。

やりがいを感じていた
営業職

萩高校卒業後、広島専門学校の専攻科で、20歳の時に、広島市の老舗醤油卸問屋に就職し営業を経験しました。

そして、27歳の時、萩へUターン。家業は継がずに、地元の中でも大きな販路を持つ萩・井上商店で修業するよう、父から強く勧められ就職しました。井上商店では、当初山口市での営業を担当していましたが、業績が認められ、次第に県外の営業を任せられるようになりました。井上社長にも期待を寄せられ、31歳の時、東京営業所に所長として赴任。名古屋から北海道までの広範囲を担当するようになり、仕事にもやりがいを感じていました。その一方で、



平成18年度「萩景観賞」ミヨシノ醤油の蔵

家業の醤油業界は落ち込み、萩でも、昔は約40軒あった醤油屋が9軒しか残っていない状況に将来性を感じられず、このまま井上商店で働き続けたいと思っていました。そんな中、36歳の時に、父が余命3カ月だという知らせを受け、再び萩へ戻ることになりました。

見えてきた醤油屋の
将来性

しばらくして父も亡くなり、家業を継ぐこととなりましたが、東京に残してきた仕事ももあり、家業と井上商店の仕事をかけもちする毎日が1年ほど続きました。醤油屋に将来性を感じることができなくなった中、どうすれば生き残ることができるのか、お世話になっていた井上社長にも相談しました。よその地域では塩辛い醤油が主

流の中、萩は、地域特有の甘みが強い醤油。昔から愛してくださる顧客はいるが、地元での競争は厳しく、今後の生き残りをかけていくためには商圏を拡げていく必要があります。そこで、醤油の延長線上にある加工品で、なおかつ外の地域でも通用する商品を開発すること。更には、井上商店にもご協力いただき、その大きな販路や流通ノウハウ、商品管理やそのサポート体制を活用できることから、外に向けた販売をすることが可能となったのでした。

ここから、井上商店と共同で商品開発が始まりました。まずは、「ぶぐだしの入った橙ポン酢」と「白身魚に合う刺身醤油」を販売。井上商店の主力商品「ぶぐだし」と、弊社の「さしみ醤油」といった自社の人気商品を生かし、「ぶぐ」や「橙」といった地域性を出すことで付加価値をつけ、好評を得たのです。こういった井上社長からのアドバイスに支えられ、醤油屋としての将来が見えてきたのでした。

企業同士で手を取り合う
「クオリティプロジェクト」

3年前、井上商店が「クオリティプロジェクト（以下QP）」を立ち上げ、私もその一員として加わりました。これは、地元の企業同士が手を取り合い、お互いの長所

を生かしたコラボ商品を開発・販売することで、関わり合った企業はもろろん、地域活性化にもつながっていきなると、井上社長が発案されたものです。その第一弾として販売したのが「萩のさしみ醤油味くらべ」で、賛同いただいた3社と共に、自社が誇るさしみ醤油を詰め合わせたのです。実は、それまで同業者同士の関わりはほとんどありませんでしたが、QPを機に、賛同いただいた醤油屋さんとの交流が生まれ、競合相手でありながらも、製品づくりの相談をするほどの信頼関係も築くことができました。

その後も、地元産の野菜を使用したドレッシングや焼き肉のたれなどを販売。そして、昨年11月には、JAあぶらんど萩の協力のもと、地元野菜をベースに、松美屋醤油の「殿様しょうゆ」と岡田味噌醤油の「ひしお」、JA山口阿武農協加工場の「ごま」といった多くのファンを持つ各蔵の人気商品と弊社が協力し、「萩・醤油屋コラボドレッシング」を3種類販売しました。通常は、「のれん」へのプライドから、他社の製品を購入し、自社の製品と組み合わせるという組み合わせは、得ないことだと思いますが、私自身、「のれん」へのこだわりも持ちつつ他社の「のれん」も認めたくえ、信頼して製品を託してく

松陰先生の教えを全国に広める

松陰神社宝物殿「至誠館」

吉田松陰没後150年にあたる2009年10月27日に開館し、松陰に関する遺品・遺墨等が収蔵されています。

至誠館では、松陰神社に伝わる松陰関連資料約1000点のうち311点が、2012年12月に山口県指定有形文化財（歴史資料）として指定されたことを記念して、昨年2月から「吉田松陰の生涯」を開催中です（3月7日まで）。

また、今年は前原一誠生誕180年記念企画展示として「松陰先生と前原一誠」が開催されます（3月21日～5月26日）。

学芸員補

松陰神社の権禰ごんねぎとして、また至誠館の学芸員補として勤める西尾敏容とよやすさん（樟東、24歳）は、三重県出身で2年前に萩にやっ



てきました。「松陰先生没日の10月27日が自分の誕生日で、不思議な縁を感じます。三重ではあまり知られていなかった松陰先生のことを全国に広めていきたいです」と話し、神社の参拝者への祈禱や、至誠館の来館者への解説などに励んでいます。

大河ドラマ、世界遺産で注目を集める「松下村塾」

来年1月から放映が始まるNHK大河ドラマ「花燃ゆ」の決定や、来年6月登壇録の可否が決定される世界遺産「明治日本の産業革命遺産」の構成資産として注目を集めている松陰神社では、今年の正月三が日の参拝客が、昨年より2000人増加するなど早くも効果が現れ始めており、来年に向けて更に増加することが予想されます。

上田俊成としげ宮司は、「大河ドラマの関係者や出演者も既に訪れています。花燃ゆは、松陰自身ではなく家族の絆にスポットを当てている点が面白く、大変期待できます。大河ドラマと世界遺産登録によって松下村塾の存在や松陰の教育について広く知ってもらいたいと思います」と期待を語りました。

中心市街地の風景が一変UFOビルが解体

跡地は「唐樋札場跡」と一体化した憩いの場へ

萩市田町商店街の東側入口に建っていた「UFOビル」が、2月上旬解体され、見慣れていた中心市街地の風景が変わりました。

UFOビルは、1979年（昭和54）に建設、鉄筋コンクリート造、地下1階地上7階建て、延べ床面積約970㎡と、萩でも少ない高層建築で、屋上の「UFO STATION」の看板とともに、長い間、中心市街地のシンボリックな役割を果たしてきました。

飲食店やカラオケ、信販会社等の事務所や古書店等が入居していました。2008年（平成20）頃からテナントもなく、また建設から30年以上が経過し、老朽化により外壁等の落下等の危険性も出ていました。



2008年5月 UFOビル(右上)に隣接する四方館跡(現在は唐樋札場跡)



2014年2月



2013年11月

この度、田町商店街振興組合連合会がビルを取得し、昨年10月から2月にかけて解体を行いました。現在は跡地の整備を行っています。

跡地は芝生とし景観の向上を図り、隣接する唐樋からひ札場跡と一体化した憩いの場として整備されます。

支え合い、感謝の気持ちを持った商品づくり

ださった同業者の方への感謝の念を持って製造にあたっています。また、トータルプロデュースをしてくれる井上商店という第三者が入るからこそ、企業同士で手を取り支え合う、今までにない商売が実現したのだと思います。

Q Pが縁となり、現在は、岡田味噌醤油と村重酒蔵（岩国市）、井上商店と共同で新たな商品を開発中で、今秋に発売を予定しています。「人と人との縁を大切に、感謝の気持ちを持って接する」という井上社長の教えを信じ、1社の力よりも、さまざまな人や企業と手を取り合い、支え合って素晴らしい商品を送り出していきたいと思えます。

■ミヨシノ醤油有限公司

萩市吉田町72

☎0838・22・0514



「萩・醤油屋コラボドレッシング」

★殿様大根、ひしお味噌、ごま玉ねぎの3種類のドレッシングを3名様にプレゼント

夢追人

萩焼作家

止原 理美さん

とめはら まさみ
(萩市土原、38歳)



一昨年(2012)、萩焼作家としてデビューし、「萩陶芸家協会設立20周年記念萩の陶芸家たち展」、「現在形の陶芸萩大賞展Ⅲ」と続けて審査員特別賞に選ばれ注目を集める若手萩焼作家・止原理美さん(萩光塩学院平成6年卒)。父は、萩焼作家の故・止原伸郎氏、祖父は郷土画家の故・大和義男氏という芸術一家の中で生まれ育ちながらも、過去に畜産業にも携わったことのある経歴の持ち主。その止原さんにお話を伺いました。

畜産の道から、萩焼の道へ

ていきました。ですが、成長するにつれ、焼物への興味は薄れ、当時大好きだった「ムツゴロウ王国」への憧れから、動物関係の仕事に就きたいと思っていました。高校卒業後は、北里大学畜産学科へ進学し、3年間、青森での実習も経験しました。その後、島根県の牧場に就職し、2年半働きました。そして、24歳の時に退職し、東京で結婚生活を送っていました。28歳の時に萩へ帰ってきました。そんな中、実家の工房の手伝いをしていたところ、父から、本気で萩焼をするのであれば、よその窯元で修業することを勧められたことから、本格的に萩焼の道を進むこととなりました。

十二代三輪休雪氏へ師事

29歳の時、十二代三輪休雪氏に弟子入りしました。昔、私の祖父(大和義男)が、小学生だった休雪先生に絵を教えたことや、父自身も、かつて、休雪先生に師事し、その感性を尊敬していたことから、休雪先生の下で学ぶことを勧められたのです。三輪窯では、土づくりや薪割りといったアシスタント業務が主でしたが、そういった作業の合間に、実際に先生が作られている作品制作のお手伝いをさせていただくチャンスもあり、先生が造形される様子を見近で見られることもできました。特に、休雪先生の「龍人伝説」は、造り始めから展覧会までの過程を見ることができ、オブジェを作る基礎から、普通ならば見ることができない技術も学ぶことができ、貴重な経験となっています。ですが、父の病気や自身の体力の限界もあり、2012年の2月末、7年間の修業を終えることとなりました。

父と師の技術から生まれた作品

三輪窯を退職してすぐの3月に父が亡くなり、その翌年に出品した「萩陶芸家協会設立20周年記念萩の陶芸家たち展」が私の作家デビューの展覧会となりました。父は、茶碗や器などの伝統工芸品を制作していましたが、私自身は、

休雪先生の影響もあり、大好きな動物の表情を作品にしました。全部で60点ほど動物のお面(マスク)を作りましたが、その表情は、そのとき思いついた動物をデフォルメしたもので、造り始めると手が勝手に動いてでき上がります。それは、やはり、三輪窯で見ていた休雪先生の指の使い方や作品全体のバランスのとり方などが私の頭の中に潜在的に残っていて、自分なりの造形として生きているからだと思います。

また、作品は父が遺した「竹炭炭化焼成」という技術を使って焼きました。三輪窯で習得した技術で作品を磨いてから、父が発案した技術で焼成すると、美しい光沢が生まれたのです。土和窯と三輪窯の技術を用いてでき上がった作品「月夜の動物園」は審査員特別賞を受賞。続いて、今年1月に開催された「現在形の陶芸萩大賞展Ⅲ」に出品した「月夜の巖流島」も審査員特別賞を受賞することができ、幸運なことだと思っています。

物言わぬ動物の悲しさを訴える

現在は、展覧会に出品する作品以外に、元々、趣味で作っていた貯金箱なども販売しています。その表情は「プサかわい」と評されることがありますが、黒色の作品とは違った表情に驚かれることも多いです。人によつては、私の

作品に「怖い」という気持ちを抱く方もいらっしゃいます。

人は、動物をかわいがったり、愛でたりしますが、私自身、過去に畜産について学び、牧場で働いていた経験から、動物が生まれる瞬間から死ぬ瞬間まで、その生死を何度も見てきました。また、動物のかわいらしさだけでなく、その凶暴さも理解しているつもりです。特に、家畜は食用として人間に利用される生き物でもあります。そんな生き物の悲しさを感じとった人が、作品を見て、その目に見透かされたような気持ちになるのかもしれない。多くの動物たちの表情を見てきたからこそ、物言わぬ彼らの悲しさや不気味さを感じられるような作品を今後も作っていきたいと思っています。

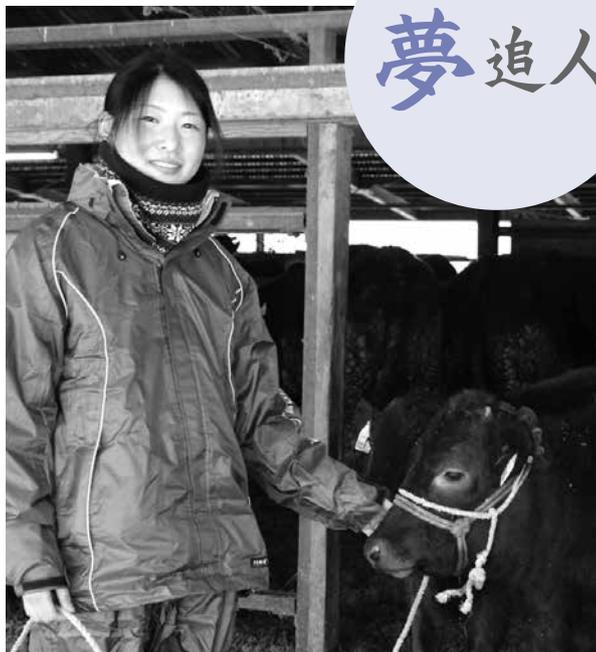
■萩焼工房 土和窯

萩市山田4425

☎0838・22・0393



萩の陶芸家たち展(13年4~5月) 審査員特別賞「月夜の動物園」



若き家畜人工授精師として活躍

横田 沙織さん

(萩市江向 23歳)

す決意が固まりました。農業大時代に研修にも訪れた、繁殖も手がけている長沢台生産組合に、平成23年に就職しました。

長沢台のスタッフと一緒に

優秀賞受賞について「水津元廣組合長や若い仲間のサポートに感謝しています」と話す横田さん。

「肉用牛の人工受精は、発情時期や受精タイミング、病気の見極めが難いため、自分が人工受精した牛が妊娠し、無事に生まれてきた時は、この仕事をやって良かったと実感します。

水津組合長のリーダーシップのもと、若いスタッフもいて働きやすい職場ですが、若い女性が少ない世界なので、近くに同道を志す仲間が出てきてくれたら嬉しいです。今回の受賞に甘んじることなく、今まで以上に努力をして、みんなが安心して任せられるような家畜人工授精師になりたいです」と話しました。

■**農事組合法人 長沢台生産組合**
萩市大字紫福2868・10
1979年(昭和54)設立、1984年(昭和59)法人化

現在、組合員6人で約410頭の繁殖、肥育の一貫経営を行う

※長萩和牛は、萩ミート販売(明木、0838・55・0298)で購入できます。

平成24年度全国和牛能力共進会で肉用牛の資質と生産技術力の高さが評価され、優等賞を受賞した黒毛和牛のブランド「長萩和牛」を生産している、紫福地区の農事組合法人長沢台生産組合(2012年5月号で紹介)。

この受賞にも貢献したのが、家畜人工授精師として年間約120頭誕生する子牛のほとんどの人工授精を担当している、横田沙織さん(奈古高、県立農大卒)です。

この業界に女性は少なく、牛を飼育していても、その中でも人工受精までやっている女性は非常に少ないということです。横田さんは、市街地から長沢台まで通勤(車で約25分)しながら牛の世話や人工授精などの仕事に携わっています。

家畜人工授精師を志す

さらに、今年度の山口県繁殖技術共励会の授精実頭数101頭以上の部では優秀賞を受賞するなど、若き実力者として活躍しています。

小さい頃から動物が好きだった横田さんは、犬のトリマーを目指して県立奈古高に入学しますが、恩師から牛の共進会(審査競技会)の勉強に誘われ、長沢台生産組合を見学したのが、畜産に興味を持つきっかけになりました。

その後、県立山口農業大学校に進み畜産を学びます。進路について、大学に進学して獣医の勉強をすることも考えましたが、柳井市で人工受精を行っている若い女性に刺激を受け、人工授精師を目指す

阿武町

生まれ変わる発祥の駅

「道の駅阿武町」 4月20日にリニューアルオープン!

平成5年4月22日に全国第1号

の道の駅の1つとして認定を受けた「道の駅阿武町」。さらに愛される道の駅を目指して建設工事が進んでいます。4月20日(日)にいよいよリニューアルオープンします。

■構造

建物は木の美しさや温かみを実感できるように地場産の木材を多用し、ヒノキの柱、杉板張りの外壁のほか、内部も木材の梁などが見える構造になっています。

■温泉棟

日本海の鹿島湾に面した絶好のロケーションを生かし、2階の浴槽からは日本海を望みながらゆつくりと湯に浸かることができ、季節や時間ごとに変化する彩り豊かな風景を楽しめます。

■物販棟

旧来の約2倍の売り場面積で、阿武町沖で獲れた鮮魚や地元の新鮮野菜など、旬の食材を産地価格で販売します。また、地域の匠による手作りの木工品や竹細工、包丁、陶芸品、裂き織などの工芸品は他にはない逸品です。

■ミニショップ

創業当時から道の駅の顔でもあった「蒸気船まんじゅう」が復活。こだわりの炭火焼きならではの皮のパリパリ感と、あんのやさしい味わいは世代を超えて人気です。

■レストラン

地場産の新鮮食材を使用した刺身定食やオリジナルのサザエカレー、特産の無角和牛を使ったメニューなどを、大きな窓から海への眺望とともに楽しめます。

■その他

電気自動車用の急速充電器やカーナビングカー用の電力供給施設、バイク等の専用駐車場を新設するほか、大型モニター等による道路や町のイベント情報などを発信します。



レストラン(上)と浴場のイメージ図

東京須佐弥富会から 復興の時を刻む屋外時計

昨年11月16日、須佐・弥富出身者の関東地区同郷会、東京須佐弥富会（大和勝輝会長、350人）の総会が開催され、地元、須佐地域の皆さんが一日も早く元気になってほしいとの思いで、須佐ふるさとづくり協議会に、募った義援金（約40万円）を渡しました。

ふるさとづくり協議会では、東京須佐弥富会の郷里に対する思いを広く地域の皆さんに伝えたいと、須佐の玄関口でもある須佐駅前、復興の時を刻む意のモニュメントとして、屋外時計を設置しました。

モニュメント時計は、ソーラーパネル付電波時計で、2月17日に完成しました。東京須佐弥富会の皆さんのご厚意に感謝申し上げます。



須佐駅前の「手塚猛昌顕彰碑」そばに設置

豪雨災害からの復旧・復興に向けて

小川支所・須佐保育園など 約110億円の復旧・復興予算

萩市では、昨年7月の豪雨災害を合併後の最大の試練と位置づけ、今年を「災害復興元年」として、一日も早く住み慣れたところで、安心して生活できるよう、全力を挙げて復旧・復興に取り組んでいます。

平成26年度災害復旧・復興予算は、36億7,628万円となり、25年度予算と合計して、109億1,390万円となります。

被災の激しかった小川支所は、小川コミュニティセンター等を併せ、防災拠点の機能を備えた地域の中核的な施設として、また須佐保育園は、高台の旧奈古高須佐分校グラウンド跡地に整備し、復旧・復興の象徴として、移転新築で平成27年度の供用開始を目指しています。

集中豪雨により氾濫した山口県管理の須佐川・田万川の河川改修は、単なる復旧ではなく、今回の集中豪雨を十分考慮した治水対策を県に要請していきます。

山陰線は、JR須佐駅から奈古駅間の不通によりバスによる代行運転が行われていますが、今年秋頃に運転再開の見込みです。

新酒の季節「萩の地酒」

藩政期（1665年）には萩・阿武郡内に143軒の酒屋があり、萩の酒造業は当時の地域経済を大きく支えていました。現在、市内には5つの造り酒屋があり、最近の各種鑑評会でも、非常に高い評価を受けています。

○岩崎酒造
（東田町）
「長陽福娘」



○岡崎酒造場
（川上）
「長門峡」



○澄川酒造場
（中小川）
「東洋美人」



○中村酒造
（椿東）
「宝船」



○八千代酒造
（吉部下）
「八千代」



山口県新酒鑑評会の評価

（平成24年酒造年度）

○吟醸酒の部・優等賞Ⅱ中村酒造、岡崎酒造場、澄川酒造場

○純米酒の部・優等賞Ⅱ中村酒造、岩崎酒造、岡崎酒造場、澄川酒造場

毎年、新酒の蔵出しの始まる時期に合わせて、萩の食も楽しめる「萩の酒まつり」を開催しています（15ページ参照）。

道の駅「萩往還」ネットショップを開始！

道の駅「萩往還」でネットショップが開設され、日本海の豊富な海の幸とこだわりの山の幸をお取り寄せできるようにしました。購入できる商品は篠原充・駅長の



自らが厳選した萩の最上級品で、萩往還オリジナルのポン酢や夏みかんマーマレード、萩往還プレミアムギフト、駅長セレクトごはんの友、海産物加工品、農産物、萩の地ビール、夏みかん加工品、ミドリヤの見蘭牛加工品など、現在60種類以上の商品が取り揃えられています。

ネットショップへは道の駅「萩往還」のホームページから（<http://www.hagioukan.com/>）接続できます。
■問い合わせ
道の駅「萩往還」
（0838・22・9889）

山口県公式アンテナショップ「山口こだわりコレクション」開設！

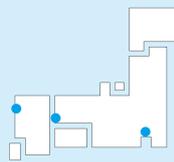
山口の海の恵み、山の恵み、民芸品などの厳選された逸品をお届けする山口県の公式アンテナショップ「コレクション」が、今年1月にネット通販大手の楽天市場にオープンしました。東京・日本橋の山口県アンテナショップ「おいでませ山口館」の人気商品やこだわりの逸品を販売します。

商品カテゴリーは、山里の幸、海の幸、お菓子・スイーツ、調味料・飲料、民芸品、詰め合わせ、地酒の7項目で、40事業者が手がける170商品を紹介。ふぐの刺身や外郎、瓦そばなどの山口県の名産のほか、萩焼や蒲鉾、近年注目を集めているオイル・ルージュ（金太郎のオイル漬け）など萩の特産品も並びます。商品は季節などに応じて、随時追加・更新されます。



スマートフォンや携帯用サイトもあり、どこでも手軽に見ることができます（<http://www.rakuten.co.jp/oidemaseyamaguchikan/>）。

■問い合わせ おいでませ山口館
（03・3231・1863）



11月9日 ニューオータニイン(東京)

つばき会関東支部



5回目となる関東支部総会が、大崎駅近くのホテルで開催され、60人が参加しました。10月26日開催予定が台風のため中止となった、東京指月会から三浦孝夫事務局長、前田信太郎幹事長が参加。品川豊勝校長から、今春5期生が卒業し新商工卒は924人、現在の生徒数は、工業系の「機械・土木科」、「電気・建築科」、商業系の「総合ビジネス科」、「情報デザイン科」の4学科体制で466人とあいさつがありました。

11月16日 ^{はえどまり}南風泊漁港活魚センター(下関市)
^{はじょうかい}

つばき会下関支部・巴城会合同同窓会



43人が出席。松村久つばき会下関支部長は、「今回は若い人が多く参加して、活気があって嬉しい」とあいさつ。つばき会九州支部との下関での合同開催を検討していることの報告もありました。また、藤田薫巴城会(萩高卒)会長も「つばき会に負けず、巴城会も最後の一人になるまで頑張りたい」とあいさつ。恒例のとらふくのコースを堪能しつつ、参加者は親睦を深めました。事務局は原嘉昭さん(萩商業平成2年卒)。

会員投稿

11月11日~12日 長崎ホテル清風(長崎)

明木小中学校 昭和34年卒業同期会

古希の祝いを、この度は長崎県稲佐山の高台のホテルで素晴らしい夜景を見ながら行いました。25人の出席(男12人、女13人)で各地域から集まり、久しぶりの会話に花が咲き、2次会では夜遅くまで話し合い、女性は朝近くまで会話したそうです。2日目は長崎市内観光し、中華の店で昼食を取り、2時半頃には別れの時が…。次回は山口市で予定しております。それまで、グッバイ。

地元幹事 児玉 勝利(萩市明木)



会員だより

田中文彦さん(鳥取県鳥取市)

生野義拳150年式典(11月23日、兵庫県)に出席しました。式典後、生野小学校の劇「生野義拳」は南八郎(河上弥一郎)を中心とした演劇でした。萩博物館在職の一坂太郎氏「奇兵隊と生野義拳」の講演で幕末長州の状況を話されました。萩ではあまりにも知らない人が多数です。河上弥一郎(朝来市では南八郎)の国思う男らしい生き方を故郷萩でも周知してください。辞世の句「議論より實を行へなまけ武士 国の大事を余所に見るバカ」

吉村光治さん(千葉県習志野市)

この正月十数年振りに、夏の帰省以外として、珍しく帰りました。母の作ってくれたおせちをおいしく頂きました。酢橙の絵は、萩からの宅配便の片隅に入れて持ち帰ったものです。



岩本喜代子さん(岡山県岡山市)

「萩ネットワーク」は妹から弟へとリレーして、三人で読んでいます。今年1月号の「大河ドラマのヒロイン 吉田松陰の妹文」をわくわくしながら読みました。「花燃ゆ」放映のことは昨年、ラジオで初めて知りました。萩がクローズアップされることは異郷に住む者にとって、大きな励みとなります。来年の放映が今から待たれます。

情報アラカルト

関東地区

■ふるさと萩・小川会

旧田万川町小川出身者の関東地区同郷会。

6月1日(日) 正午～午後3時
東京都品川区大崎1・6・2
ニューオータニイン東京

■山口フェア
(090・9673・2296)佐伯

忠小兵衛のかまぼこ等を販売予定です。

3月4日(火)まで
埼玉県さいたま市浦和区高砂1・15・1 伊勢丹浦和店

(048・834・1111)
■ふるさとの食、にっぽんの食
全国フェスティバル

岸田商会の地ビールやポン酢等、忠小兵衛のかまぼこ等を販売予定。萩大志館もスタッフとして参加予定。

3月8日(土)、9日(日) 午前10時～午後4時
東京都渋谷区神南2・2・1 N HK放送センター前、代々木公園

■おいでませ山口館のイベント
○やまぐちの蔵元「山口和らぎ会」
八千代酒造(吉部) が出店予定。
3月10日(月)～14日(金)

○年度末大感謝セール
通常販売商品の一部の商品を除

き5%割引で販売。

3月25日(火)～27日(木)
○萩の夏みかんフェア
5月中旬

東京都中央区日本橋2・3・4日
本橋プラザビル1階 おいでませ山口館(03・3231・1863)

■野坂和左陶展
3月13日(木)～22日(土)

東京都文京区本郷5・28・1
ギャラリー愚伶

(03・5800・0806)
■小田善郎展(油絵)

萩出身の洋画家(萩高22期、昭和45年卒)の個展。

3月19日(水)～29日(土)
東京都港区六本木7・6・5 六本木栄ビル3階

Shonandai MY Gallery
(03・3403・0103)

■松林桂月展「没後50年 松林桂月」
水墨を極め、画中に詠う

松林桂月は、萩に生まれ、東京に出て渡辺華山の孫弟子にあたる野口幽谷に師事。山口県立美術館の30年ぶりの回顧展が巡回。

4月13日(日)～6月8日(日)
東京都練馬区貫井1・36・16
練馬区立美術館

(03・3577・1821)
■岡田裕 作陶展

5月20日(火)～26日(月)

中部地区

■濱中史朗展さる山@金沢

3月2日(日)まで
石川県金沢市広坂1・2・20
モノトビト

(076・255・0086)
■岡田裕 作陶展

3月28日(金)～4月3日(木)
長野県長野市南千歳1・1・1
ながの東急百貨店

(026・226・8181)
■大阪指月会

関西地区の萩高同窓会。

4月13日(日) 正午～午後3時
大阪府北区芝田2・4・53
大阪弥生会館

(077・567・1188) 伊藤

■萩商工商業科昭和38年3月卒業生同窓会

5月13日(火) 午後4時～
兵庫県神戸市中央区北野町1丁目
ANAクラウンプラザホテル神戸
(新神戸駅前)

(090・5064・1489) 横山

■金子司展

3月5日(水)まで
広島市中区胡町6・26

中国地区

福屋八丁掘店 7階ギャラリー

○一 (082・246・6111)
■第60回 日本伝統工芸展
陶芸家 岡田裕、岡田泰、渋谷英一、玉村登陽、野坂和左、松尾優子の作品が入選しました。

◆広島展 3月16日(日)まで
広島市中区上職町2・22
広島県立美術館

(082・221・6246)
■さとう広島店開店40周年記念
三輪和彦展

3月11日(火)～17日(月)
広島市中区基町6・27
さとう広島店

(082・225・2111)
■襲名記念 十三世 坂高麗左衛門展

3月13日(木)～19日(水)
島根県松江市朝日町661
一畑百貨店 5階美術サロン

(0852・55・2500)
■西村不可止 個展

萩市紫福出身で広島在住の油絵画家・西村不可止の作品を展示。

4月1日(火)～7月31日(木)
広島県安芸高田市八千代町勝田494・7

八千代の丘美術館A棟
(0826・52・3050)

■2人展
田村覚志(FAZZ)の線描画
作品が出展されます。

■四国地区

九州地区

4月1日(火)～30日(水)
愛媛県松山市道後湯之町14・26
道後の町屋

(089・986・8886)
■濱中史朗 個展(陶芸)

4月12日(土)～20日(日)
福岡市博多区三筑2・2・31
とどろき酒店

(092・571・6304)
■山口県関係

■グループ展「Decor」空間茶天

田村覚志(FAZZ)の線描画
作品が出展されます。

3月7日(金)、8日(土)
防府市上天神町6・17 空間茶天

(0835・22・0073)
■小田善郎展(油絵)

3月13日(木)～23日(日)
山口市中央1・5・14
ギャラリー・ナカノ

(083・924・6648)
■器と絵画の二人展

内村幹雄と蔵貫信の作品の展示

4月8日(火)～20日(日)
美祿市大領町西分796・1
ギャリりの子

(0837・54・0002)
■岡田裕・泰父子展

4月9日(水)～15日(火)

山口市中町3・3
山口井筒屋 5階美術ギャラリー

(0833・902・1111)

躍動展

画家・藤崎恒頼の作品を展示。

4月17日(木)〜22(火)

長門市東深川803・8ウエーブ

(08337・222・1155)

5月8日(木)〜11日(日)

宇部市朝日町8・1

宇部市文化会館

(08336・317373)

大浮世絵展

江戸東京博物館、名古屋市博物

新規(再)加入会員

小田雅子さん

(宇部市)

大草康さん

(東京都小平市)

水津守生さん

(京都府向日市)

橋村妙子さん

(滋賀県甲賀市)

片山晶子さん

(山陽小野田市)

竹本良夫さん

(大阪府大阪市)

富山みちよさん

(奈良県奈良市)

高野清見さん

(東京都千代田区)

西村浩一さん

(阿武町)

中村健一さん

(東京都渋谷区)

桶谷知弘さん

(秋市)

伊藤早苗さん

(福岡県上賀茂市)

田村キヨ子さん

(長門市)

林智恵子さん

(岩国市)

中野信子さん

(福岡県遠賀町)

金子興一さん

(秋市)

上村康子さん

(秋市)

藤井保美さん

(美祢市)

中川操さん

(秋市)

倉重洋子さん

(秋市)

(12月25日〜2月24日)

20人

館でも開催された浮世絵展。浮世絵の傑作、大集合。あなたの見たい浮世絵に出会えます。

5月16日(金)〜7月13日(日)

山口市龜山町3・1

山口県立美術館

(0833・9255・7788)

次代を担う萩焼精鋭作家8人展

岡田泰、野坂和左、船崎透の作品が展示されます。

5月28日(水)〜6月2日(月)

宇部市常磐町1・6・30

宇部井筒屋 4階催場

(08336・358100)

萩市関係

萩の酒まつり

3月23日(日) 午後5時〜8時

萩本陣

▽参加蔵元 岩崎酒造、岡崎酒造場、澄川酒造場、中村酒造、八千代酒造

▽参加料 男性6000円、女性5000円

▽定員 200人(先着順)

(問) 萩市商工課内萩の酒まつり実行委員会(08338・253638)

ウィレッジコンサート

ゲストに美祢市出身の権上康志(ベース)を迎えた、2年ぶりとなる近藤大地(ピアノ)のソロコンサート。

4月19日(土) 午後7時〜

料金 3500円

萩市土原291・1 ヴィレッジ

(08338・256596)

大屋窯SALE

5月1日(木)〜5日(月・祝)

萩市椿905

大屋窯(08338・2227141)

阿武町関係

コンコードジャズ・フェスティバル2014

スタンダード・ジャズの第一人者、ベニー・グリーン(ピアノ)、日本ジャズ界の巨匠、五十嵐明要、杉原淳、原田忠幸(サクソフ)、日本屈指のジャズ・ボーカルグループ、ブリーズが登場。

5月25日(日) 午後6時〜

全席指定6000円(500席)

阿武町町民センター文化ホール

(083388・22044)

テレビ情報

TBSXWOW共同制作

ドラマ 木曜ドラマ劇場「MOZU Season1〜百舌の叫ぶ夜〜」

伝説のハードボイルド小説「百舌」シリーズの連続テレビドラマ

化。萩市出身の俳優、松本実さんが出演。

4月スタート、午後9時〜10時

TBS系列(全国)

JR西日本テレビCM「DISCOVER WEST 2014」

JR西日本のキャンペーンCM

で萩が紹介されます。萩駅、菊屋横町、藍場川、堀内鍵曲でロケ。仲間由紀恵さんが出演。

3月〜放送

放送地域 関東、関西ほか

出版情報

山口県ゆかりのお店ガイドブック第3弾

山口県東京事務所が、首都圏にある「山口県出身者がオーナーの店」や「山口県野食材を扱っている店」などを紹介する「山口県ゆかりのお店ガイドブック」の第3弾を発行しました(無料配布)。

今回掲載は114店舗で、27店舗が新規の掲載です。

▽主な配付場所 おいでませ山口館、都道府県会館、山口宇部空港、岩国錦帯橋空港、新山口駅など

(問) 山口県東京事務所

(0335023355)



A6版118ページ 無料配布

プレゼント

①ミヨシノ醤油提供「萩・醤油屋コラボドレッシング」を3名様。

②タケ・クリエイト・ハギ提供「ペントレイ」を2名様

③萩・幕末維新検定公式テキスト(問題集)を3名様。

■応募方法 ハガキに品名、住所氏名、電話番号、近況等を明記のうえ、萩ネットワーク協会プレゼント係まで。3月20日(消印有効)。

タケ・クリエイト・ハギの常設展示・販売店舗

萩産の竹を用いて、曲げの形状を生かした北歐風の家具などを作り、世界的にも注目を集めているTAKE create Hagi(タケ・クリエイト)・ハギ、刀禰勇代表取締役の竹製家具商品や小物インテリア商品等は、次の店舗で常設展示・販売を行っています。

▽兵庫県神戸市東灘区向洋町大丸松坂屋百貨店大丸 インテリア館「ミューゼール」

(0788・8465017)

▽広島県広島市中区基町

そごう広島店 新館9階インテリアスタジオ

(0822・5127691)

ハギ・バンブー・スツール

世界的に著名なプロダクトデザイナー、喜多俊之氏がデザインした「ハギ・バンブー・スツール」は全国16店舗で取り扱っています。



Hagi Bamboo Stool イタリア製牛革シート ■問い合わせ TAKE create Hagi (0838・22・0058)

イベントカレンダー

萩市観光協会 ☎0838・25・1750

～3月31日(月)

◇萩まちじゅう味めぐり・市内各所
萩温泉郷湯めぐりキャンペーン

～4月3日(木)

◇萩城下の古き雛たち 旧久保田家住宅ほか

～3月30日(日)10:00～16:00

◇萩・椿まつり 笠山椿群生林

3月1日(日)～11月30日(土)9:00～16:00

◇萩八景遊覧船の運航 萩城跡横指月橋

3月1日(土)～16日(日)の土・日曜日10:00～

◇萩往還梅林園まつり 萩往還梅林園

3月2日(日)10:00～

◇萩・しる魚まつり 山口県漁協萩地方卸売市場
道の駅「萩しーまーと」

3月9日(日)10:00～

◇萩の真ふぐまつり 山口県漁協萩地方卸売市場
道の駅「萩しーまーと」

3月22日(日)9:00～

◇萩往還ワンデューオーク2014 萩往還

4月12日(土)～11月30日(日)9:00～15:00

◇萩・長門峡観光遊覧船の運航
川上明神島運動公園横

5月1日(木)～5日(月・祝)9:00～17:30

◇萩焼まつり 萩市民体育館

5月3日(土・祝)～5月4日(日・祝)10:00～15:00

◇萩・大茶会 萩城跡横指月公園ほか

萩・長門峡観光遊覧船

4/12

阿武湖(阿武川ダム湖)の湖面から壮大な自然を眺めることができます。11月末まで運行し、新緑や紅葉など、四季折々に変化するダム湖の自然景観を楽しめます。
・佐々連コース(約50分)・重嶺岩コース(約90分)

2013フォトコンテスト最優秀賞



萩・椿まつり

3/30

笠山虎ヶ崎の約10haの敷地に自生する約25,000本のヤブ椿が、可憐な花を咲かせ、色鮮やかに咲き乱れ、見る者を魅了します。期間中の土・日曜日、祝日には、萩椿小町の会場案内や椿見どころ案内による無料ガイド、ワンコインフォトサービス(100円)などがあります。



2013フォトコンテスト入選



萩往還梅林園まつり

3/16

幕末の豪商・梅屋七兵衛が「羅浮亭」という茶室と梅林を椿地区の涙松跡付近に構えていたことにちなみ整備され、約300本の紅梅、白梅、しだれ梅の花と香りが楽しめます。期間中の土・日曜日は、お茶席、尺八・琴の演奏、蒸気まんじゅうなどを販売。



萩八景遊覧船

3/1

萩の自然や歴史的景観を水辺から楽しむことができます。11月末まで運航し、堀内伝建地区や平安古伝建地区の武家屋敷を川から眺める40分の往復ルート。天気の良い日には、指月山や菊ヶ浜を海から眺めるコースの延長、桜の開花時期には20分長めの「桜鑑賞コース」を運行。

山口県立萩美術館・浦上記念館だより

☎0838・24・2400

山口伝統工芸展

4月10日(木)～20日(日)

日本工芸会山口支部会員の、陶芸、赤間硯、金工、漆芸の4部門の新作・力作を展示します。

■観覧料 一般300円、18歳以下・70歳以上無料

生誕

130年

川瀬巴水展

かわせはすい 一郷愁の日本風景

4月26日(土)～6月8日(日)

「昭和の広重」とも称えられた木版画家・川瀬巴水の巡回展です。

○普通展示(収蔵品展示)

▽浮世絵 明治の役者絵(～3月9日)、月岡芳年 風俗三十二相(3月11日～4月13日)

▽東洋陶磁 緑釉陶器の歴史(～5月18日)

▽陶芸 〈龍神伝説〉の世界(～4月13日)、オブジェ・陶造形の潜勢力Ⅱ(～6月22日)



尾州半田新川端

萩博物館だより

☎0838・25・6447

ふるさとの島・ふるさとの山河

4月6日(日)まで

1960年代に民俗学者・宮本常一が撮影した萩六島の写真や写真家の角川政治が撮影した阿武川ダム水没地域の写真など、勤勉に、懸命に、そして心豊かに生きてきたであろう「ふるさと」の暮らしを浮き彫りにします。

■観覧料 大人500円、高校・大学生300円、小・中学生100円

◎年中無休

山田顕義と近代日本

4月19日(土)～6月22日(日)

生誕170年を記念し、山田顕義を通じて萩ゆかりの人物が近代国家形成の明治日本に果たした役割を紹介します。協力/日本大学広報部



(1960年頃、相島)